

# 幼児の家庭の職業とその知能との關係

苦 瓜 惠 三 郎

兒童の知能の上に、環境と遺傳とが、偉大な力をもつてをるといふことは、今更論するまでもないこととあります。この意味において、家庭の職業と幼兒の知能とは、著しい關係のあるものでありませう。

ことに從來の我國の狀態のやうに、學問をしたものは概して優れた遺傳素質をうけてゐるといふこと、これらのものは概して優れた家庭を作つてゐるし、遺傳素質のおとつたものは、多くは學問もなく、その家庭も前者に比較すると大抵劣つてゐる事から、家庭の種類によつて、遺傳素質及び環境の良否の大體の種類を決定しうることを考へられます。このやうな考へから、私が知能検査を行つた被檢兒の家庭を次の三類に區別しました。

第一類、教師、會社員、官公吏、醫師、僧侶、軍人、無職等。

第二類、商店、(米屋、八百屋、氷屋、牛乳屋、藥屋等)、大工職、植木職、桶職、質屋等。

第三類、職工、工夫、日傭、車力挽、屑屋、鳶職、拾ヒ屋、船夫等。

以上の區別には、適確な標準をおくことは出来ませんでした。即ち、大工、植木屋の類を第二類に入れ、何故に職工を第三類に入れたか、といふことも、別に根據があつてのことではありません。唯一般に、一定の職をもつて割合に安定な家庭組織の出來てゐると思はれるものは第二類に入れ、第三類には、主としてその兒童を託兒所などに出して居るものであつて、その職業も一般に安定性を缺き、家庭の組織も比較的脆弱だと思はれるものを包含せしめたのであります。

尙第一類には、その職業の上から、從來の我國の實情に照して、比較的優れた稟賦を有するものゝ從事する職業と思はれるもので、従つて家庭も最も堅實であると思はれる種類のものを集めたのであります。唯、無職をこれに入れた理由は、我國の現状に

照して、幼稚園にその子弟を委ねる位の程度の家  
 庭で、而も無職と稱するものは、多く軍人官吏などの  
 退隠後か、またはそれらの未亡人かの家庭であり、  
 または地主、家作持ちなどで、定職なくして比較的  
 ゆたかな生活をしてをるものを含んでをる所から、  
 一般的に考へて、無職は寧ろ第一類に属すべきもの  
 と考へたまであります。

今次に各の精神検査についての結果を、採點法に  
 よりて纏めたものを元として、家庭のこの三類別に  
 属する兒童のあらはした成績を比較して示して見ま  
 せう。

なほ表の中に用ふる年齢の符號は、各々次のやう  
 な年齢群の兒童であります。

- A、滿六歳以上滿六年四ヶ月までの兒童、
  - B、滿五年半以上滿六年未滿、
  - C、滿五年以上滿五年半未滿、
  - D、滿四年半以上滿五年未滿、
  - E、滿四年以上滿四年半未滿、
- 第一、左右の關係の認識に關する検査  
 問 1、右の手はどれですか。  
 2、左の耳は

3、右の耳は、

兒童の答によつて、その答へ方を區別し、全部い  
 ひあてたものに四點をあたへ、全く知らないものを  
 零として検査しました。

E	D	C	B	A	被檢兒數平均得點		
					第一類	第二類	第三類
八	一一	一九	三三	二一	〇、五〇	六	八
	一、〇〇	一、九五	一、九四	三、一六		七	
						〇、八六	
						一、一七	
							八
							〇、三七

○第二、正方形の描方に關する検査の結果  
 採點は最高五點とし、何もかけないものを零とし  
 ました。

B	A	被檢兒數平均得點		
		第一類	第二類	第三類
三三	二一	二	一	一
二、七八	三、七二		三、〇〇	二〇
		二	二	二
		二、七八		二、五〇
				二、八六

			第一類	第二類	第三類
E	D	C	一九二、七四	一七二、五三	二二二、一九
			一一二、五五	七一、四	一一一、三三
			八一、八八	六一、五〇	八一、一三

○第三、半圓形の描方の検査に關する結果  
採點法は正方形の場合と同様です。

						第一類	第二類	第三類			
被檢兒數		平均得點		被檢兒數		平均得點		被檢兒數		平均得點	
E	D	C	B	A							
					二二三、一七	一三二、六九	二〇二、〇〇				
					三三二、九一	二八二、三九	一四一、五〇				
					一九二、三七	一七二、二四	一一一、〇五				
					一一二、〇九	七一、〇〇	一一一、三三				
					八一、五〇	六〇、三三	八〇、七五				

○第四、十形描寫に關する検査の結果  
採點は正方形と同様です。

		第一類	第二類	第三類			
被檢兒數		平均得點		被檢兒數		平均得點	
B	A						
		二二二、七一	一一三、三一	二〇一、二五			
		三三二、二四	一一、五四	〇、八六			
			二八	一四			

			第一類	第二類	第三類
E	D	C	一九一、六三	一七〇、九四	二二〇、六七
			一一一、六三	七〇、一四	一一〇、一七
			八一、〇〇	六〇、三三	八〇、二八

○第五、嵌板の検査に關する結果  
久保良英氏の使用された嵌板を用ひて試みて見ました。

採點は、子供の嵌め込んだ時間によつて、時間の早いものからおそいものまでを、五點から零までに分けました。

						第一類	第二類	第三類			
被檢兒數		平均得點		被檢兒數		平均得點		被檢兒數		平均得點	
E	D	C	B	A							
					二二三、七一	一三三、五一	二〇二、二〇				
					三三三、四五	二八三、三六	一四二、七九				
					一九三、三二	一七二、八二	一一二、二四				
					一一三、二七	七一、八六	一一一、九二				
					八一、二五	六一、三三	八〇、五〇				

○第六、組合せ嵌板の検査に關する結果  
組合せ嵌板は、組合せて或る形態を作りあげるやうにしたものを嵌め込む検査です。

採點は時間により最高を七點としました。

E	D	C	B	A	被檢兒數平均得點		
					第一類	第二類	第三類
八	一一	一九	三三	二一	二一	一三	二〇
〇、五〇	〇、七三	一、六八	三、〇六	三、七一	三、七一	三、七七	二、二〇
六	七	一七	二八	一三	一三	一三	二〇
一、五〇	一、四四	二、一八	三、一一	三、一一	三、一一	二、一二	二、一二
八	一一	二一	一四	二〇	二〇	一四	二〇
〇、六三	一、八三	一、五五	二、一一	二、一一	二、一一	一、五五	一、五五

○第七、置換検査の結果

採點は五點から零までです。

E	D	C	B	A	被檢兒數平均得點		
					第一類	第二類	第三類
八	一一	一九	三三	二一	二一	一三	二〇
〇、五〇	〇、七三	一、六八	三、〇六	三、七一	三、七一	三、七七	二、二〇
六	七	一七	二八	一三	一三	一三	二〇
一、五〇	一、四四	二、一八	三、一一	三、一一	三、一一	二、一二	二、一二
八	一一	二一	一四	二〇	二〇	一四	二〇
〇、五〇	一、八三	一、五五	二、一一	二、一一	二、一一	一、五五	一、五五

○第八、算術に關する検査の結果

間 1、手指七本を示してこれだけで幾つですか

2、一つと一つとで幾つですか

3、一つと二つとで幾つですか

4、二つと二つとで幾つですか

5、二つと三つとで幾つですか

採點は五點から零までにしました。

E	D	C	B	A	被檢兒數平均得點		
					第一類	第二類	第三類
八	一一	一九	三三	二一	二一	一三	二〇
〇、七五	一、四五	二、六八	三、五八	三、七一	三、七一	三、〇〇	二、四〇
六	七	一七	二八	一三	一三	一三	二〇
一、〇〇	一、二四	二、七七	三、五四	三、〇〇	三、〇〇	二、五四	二、八六
八	一一	二一	一四	二〇	二〇	一四	二〇
一、〇〇	一、三三	一、二七	二、八六	二、四〇	二、四〇	一、二七	一、二七

以上述べたところの各の精神検査の結果を、児童の家庭別にしたものを見ますと、その三つの類別の間に大體次のやうな特徴を認めることが出来ます。

1、一二の例外を除いて、第三類の児童の成績は、第一、第二類の児童の成績におとること。

2、第一類の児童の成績は、一般に第二、第三類

の兒童の成績に優り、第二類の兒童の成績は、大抵第一、第三の中間にあること。

3 第一類の兒童の成績は、EよりAまでの進歩の工合が比較的規則正しいが、第二、第三類は、その進歩が不規則であり、なほ一般に、BAに於ける進歩の度が少ない。

4、BA年齢に於て、第二第三類が、特に第一類に劣るものは、左右の關係の検査、正方形の描方及び算術の検査であり、また置換検査もこの傾向をもつ。

5、第二第三類に於て、第一類に比すれば劣つてをりながら、BAに至つてもなほ進歩のやまないものは、半圓形及び十形の描方及び組合せ嵌板の検査の成績である。

6、各部類共、年齢の進むにつれて、成績の進歩の著しくなるものに、嵌板の検査の成績がある。

7、EDの如き幼い年齢に於て、第一類が著しく第二類を凌駕するものに、正方形、半圓形及び十形の描方、嵌板及び組合せ嵌板の検査の成績がある。

8、ED年齢に於ては、三部類共その成績の殆んど同様なもの、または第一類が却て第二第三に劣る

ものに、左右、置換及び算術の検査がある。

9、BAに於て、第一類が第二類に比して著しく優れてをるものに、左右、置換及び算術に關する検査がある。

10、BA年齢に於て、第一類第二類は殆んど同様の進歩の傾向を示し、第三類のみ著しくおとるものに、嵌板及び組合せ嵌板の検査がある。

私共は、兒童をその家庭の職業によりて三つの部に分ち、その各々の成績を比較した結果として、大要右のやうな特徴を認めることが出來ました。そしてこれらの特徴によつてどんなことが論斷せられるでありませうか、獨斷は暫くさけることにして、唯かうは考へられぬであらうかと思はれる二三のことについて、次に述べて見ようと思ひます。

一、前掲の12の特徴によつて、第二類は第三類より、第一類は第二第三類の兒童より、その遺傳素質及び環境の優れてゐるといふことを示すのではない。

二、3の特徴によつて、第一類の兒童は、適當な環境のもとにあつて、兒童の能力の都合よき發展が現れてゐるが、第二第三類の兒童は、動もすると、

(その遺傳素質の悪い上に)その能力の都合よき發展が阻止されつゝあるのではないか。

三、4の特徴によりて、第二第三類の家庭では、學齡實際の兒童に對しても、左右の關係を教へたり、描くことを練習させたりしてゐないことを示すのではないか。

四、同様に4の特徴によつて、吾等の行つた置換検査のやうな符號に對する器械的記憶の練習が、第二第三の家庭に於て不足してゐること、換言すれば、第二第三の家庭では、學齡實際の兒童に對して文字を教へることの少ないことを示すのではないか。

五、5及び6の特徴によつて、比較的環境の影響をうけないやうな事柄の検査の成績は、第二、第三類の兒童はつねに第一類の兒童に劣つてはゐるが、しかし進歩のたへずあらはれてゐること。換言すれば、第二、第三類の兒童も、家庭で教へられたり、練習させられたりするところは少ないが、遺傳的能力のたへず進歩してゐるのであるといふことを示すのではないか。

六、7及び8の特徴によつて、兒童の知能はそれぞれ要素的のレベルのあるものであるから、先天的

に優劣のある兒童の間にも、ある年齢においては、ある特殊の能力については、同様の能率を示すものであるといふことを示すのではないか。

この外910の特徴についてはどんなことが考へられるか、或はかゝる現象は單に偶然的のものに過ぎないだらうか、臆測を逞ふすることは、暫くひかえなければなるまいと思ひます。

○机邊より

……夕機の空が河を染めてゐる。河沿の途を大人と子供とが行く。「もう歸らうぢやありませんか」と手をひいてゐる女がいふ。「いやア、もつと行かうよ」と手をひかれてゐる子供がいふ。疲れた親は活力に溢れた子供のアスピレーションに水をさす。活力に任ずる子供は疲れた親に同行を強ひる。親と子とが自然の愛によつて結合されたらばお互の因果である。親の手に纏る事なしに河沿の途を遠くへ行く術を知らぬ子供のアスピレーションは運命の反語である。

夕の光は次第に消える。河筋は遠く白く闇の中に浮んで見える。河の面に霧が深くなる。……(三太郎日記より)